

審査の結果の要旨

氏名 秋葉 昌樹

本論文は、保健室における養護教諭の教育的・相談的実践の構造、機能、意味について、いじめや不登校等の問題に対する保健室の貢献が言われている今日の状況を踏まえ、中学校の保健室でのフィールドワークに基づき、エスノメソドロジー研究の観点から考察・解明したものであり、本論5章と、研究課題を設定した序章、及び、知見を要約し、その意義を論じた終章から成り立っている。

序章では、本論文の二つの課題、保健室・養護教育のエスノメソドロジー的研究という実質的課題と、エスノメソドロジー研究の新たな展開可能性の提示という理論的・方法論的課題を設定し、その必要性と適時性を論じている。

第1章では、エスノメソドロジー研究の系譜を類型化し、その批判的検討を行い、教育の臨床エスノメソドロジーの可能性を明らかにするために、第一に、エスノメソドロジー・会話分析研究について、理論的・方法論的観点および研究対象の観点から批判的に検討し、「エスノメソドロジー的無関心」という指針の捉え直しを行い、第二に、成員の含蓄的实践を解明しようとしたエスノメソドロジーの初発の視座を今日的な分析水準で回復する方法論的視座と作業手続きを呈示している。

第2章では、保健室の日常風景を構成する生態学的諸項目をエスノグラフィックに叙述し、来室者記録用紙等の実践的意義を明らかにし、養護教諭の実践を支える在庫知識の源泉として、医学的知識及び人間関係論的・生活史的知識の重要性を明らかにしている。

第3章では、保健室における悩み相談について、身体的トラブルでの来室と悩み相談の来室の特質及び両者の重なり・移行のありようを考察し、養護教諭の多面的な在庫知識や来室者記録用紙に記入するという活動などが、悩み相談の来室を身体的トラブルでの来室として定式化する機能を持つこと(通常化作用)などを明らかにしている。

第4章では、保健室における悩み相談場面とカウンセリング場面及び授業場面とを比較検討し、保健室の相談場面の開放性とやりとりの対称性や、保健室での相談が「つらなる来室」や「横のひろがり」を持ったものになる傾向があることを明らかにしている。

第5章では、保健室に複数の生徒が同時に来室する場合の「対応の順番」について、ビデオ・データに基づき分析し、体温計を渡すことをはじめ種々の生態学的・制度的諸要素が活用され、円滑な順番化が図られていることを明らかにしている。さらに、この事例分析を通して、保健室でのやりとりの中に埋め込まれた反省的实践のありようを、知識ベースとして構築し共有することの重要性を指摘し、そのための事例データの構築法として「生態学的トランスクリプト」の作成方法を考案し提示している。

終章では、本論文の主な知見を整理し、その実践的意義及び理論的・方法論的意義について論じている。

以上のように、本論文は、これまでの研究では明らかにされていない保健室における教育的実践ならびに相談的実践の特徴と意義について新たな知見を提出するとともに、臨床的教育実践研究の新しい方向性とエスノメソドロジー研究の新たな可能性を呈示している点で、当該領域における今後の研究の発展に大きく貢献するもの判断される。よって、本論文は、博士(教育学)の学位を授与するに相応しいものと判断された。